



グループ社員から始まった エコアクションの環が、 世界各地で大きく広がっています。

「リコーグローバルエコアクション」は地球環境について考え、行動する日。2006年に始まったこの活動が、リコーグループ社員の家族や友人、お客様、また近隣企業や行政機関などへも拡がり、大きなアクションの環に成長しています。

グループ社員の意識啓発を目的に、 世界5極でエコアクションを呼びかけ

リコーグローバルエコアクションは、国連の「世界環境デー」にあわせ、グループ社員の環境意識啓発を目的に実施しているイベントです。世界各地の主なリコー関連施設、広告塔の消灯や定時退社を行うほか、各事業所/部門、社員がそれぞれに趣向を凝らしたアクションを実施します。リコー社会環境本部では、各国語ポスターやパソコン壁紙、メールや社内放送などを利用して世界のグループ社員に参加を呼びかけ、推進を行ってきました。「当初は、参加者にイントラネット上で事前の参加登録と実施後の報告をしてもらい、CO₂削減効果を計算していました。しかしエコアクションが社員の家族や友人、お客様、また近隣企業や行政機関など、外部に急速に拡がりはじめ、全体の参加者や効果把握が難しくなってきました」と語る推進担当の林裕子。

国柄、地域柄を反映した さまざまなエコアクションが 活発化

「グローバルで推進する過程では、現地の組織・職場や国民性、意識の違いなどによる課題がいくつかあり



社会環境本部
環境コミュニケーション推進室
伏見 聡子

社会環境本部
環境コミュニケーション推進室
林 裕子

ました。たとえば、スタート当初は日本の夏至の日にしていましたが、世界共通で認知されている国連の世界環境デーに統一したり、残業の多い日本では意味がある定時退社によるオフィス消灯も、日頃から早めに退社する地域ではあまり効果が期待できないので、アクションの内容を自由に企画できるようにしたり、また、一日限りではなく、期間で活動を行う地域が増えてきたので、実施期間を延ばしたりと、毎年、試行錯誤を繰り返してきました(林)。このような取り組みの結果、国柄や地域柄を反映したエコアクションが定着し、それぞれの良いところが他の地域にも自然に拡がり始めました。2008年度から推進に加わった伏見聡子も最近の各地の活動から、グローバルで展開してきた意義を実感すると言います。「たとえば、日本で“マイカー通勤禁止”となるころが、オランダでは“あなたの車を休ませてあげよう”という表現になります。アクションを我慢や制限にしてしまわずにポジティブに捉えていくことで、活動の継続や定着につながります。このような意識改革の効果は国内だけでは限られていたと思います。環境啓発の目的は、環境に対して前向きな意識を育てることなのです(伏見)。持続可能な社会の実現に向けて、世界の人々が地球環境に対する意識を変えていかなければならない今、リコーグループは、エコアクションの環がその一助となると考えています。

日本極

各地でクリーンアップ活動、広告塔・看板の消灯、エレベータ利用制限、定時退社などが一斉に行われました。リコーITソリューションズでは全勤務者994人の98%が定時退社を実施しました(残り2%は業務対応)。「家族と環境について話す機会ができた」「久々に早く帰宅し、今まで意識しなかったことに興味をもてた」などの声が聞かれました。リコー本社事業所では、食堂サンプルの無駄をテーマに社員が意見交換するなど意識改革を促す活動を行いました。



社員が定時帰宅し、消灯された居室
(リコーITソリューションズ)



食材資源・コスト削減を狙いとして、本社事業所食堂メニューのサンプル展示の代わりに、TVモニターにメニュー写真を掲示

アジア・パシフィック極

極販売統括会社のリコーアジアパシフィックと販売会社のリコーシンガポールがNGO「シンガポール環境カウンセシル」と共同で国内の組織や団体に参加を呼び掛け、全国規模のアクションが定着しました。3年目となった2009年は過去最多の43組織（官庁、学校、企業など）が参加、消灯やエアコンの温度調整、紙の節約などのエコアクションを実施し、7,767kWhの電力（約5トンのCO₂排出）削減を達成しました。



発電自転車



シンガポール環境庁のNg Meng Hiong局長（前列左から7人目）、リコーアジアパシフィックの真嶋社長（同6人目）を囲む、参加者



リコーハンガリー社員と活動に参加したNational Society of Conservationistsのメンバー、Eötvös Loránd大学の学生

欧州極

欧州では、高い環境意識に基づいたアクションが活発化しています。オランダの販売会社リコーヨーロッパ（ネザーランド）、リコーインターナショナル、リコーヨーロッパSCMの3社では、「車を休ませてあげよう（Give Your Car a Break!）」キャンペーンを実施し、公共交通機関と自転車利用と同僚との相乗りを奨励。また無駄なCO₂の排出を抑制するため、社有車のタイヤの空気圧のチェックと調整を行いました。また、リコーハンガリーでは、Duna-Ipoly国立公園内のÓcsa鳥類保護区で、社員が、National Society of Conservationistsのメンバーと、Eötvös Loránd大学の鳥類学者や学生と協力して、鳥類の保護に必要な木製の観察路の修理を行いました。リコードイツではエコと健康の両立を目的にドイツ全土で行われた自転車通勤キャンペーンに参加し、65名の社員が期間中20日以上自転車で通勤しました。



自転車通勤キャンペーンに参加したリコードイツ社員

米州極

極販売統括会社のリコーアメリカズコーポレーションでは、カーシェアリング・カープールや相乗りなど、環境とコスト削減を兼ねた活動が活発に行われました。販売会社のリコーカナダでは地域の企業数社と共同で「電力節約プログラム」を実施。人間工学の専門家のアドバイスなどによりオフィスの電力削減を行いました。この結果を受け、活動はカナダ中のリコーカナダおよびIKON社に広がっています。



電力節約プログラムのポスター

中国極

中国極では一企業の活動を超越、行政と協力して行う啓発イベントが定着しています。極販売統括会社リコーチャイナ（RCN）は上海市長寧区と共同で「世界環境日・普及促進企画」を開催。会場の金菊小区に集まった老若男女が“共に美しい長寧区、上海、中国、そして地球を守りましょう”と唱和し、環境保全を誓いました。また、リコーチャイナ本社では、広告塔やネオンサインを消灯し、全社員が17:30に定時退社しました。



環境イベントで挨拶をするRCN新村社長



ボードに環境についてのメッセージを書き込む参加者（リコーソフトウェア研究所（北京）有限公司での活動）

●グローバルエコアクションの各地の活動はWebサイトで紹介しています。
http://www.ricoh.co.jp/communication/stakeholders/01_01.html